

日本地球惑星科学連合 2012 年大会

会期：2012 年 5 月 20 日(日)～25 日(金)

会場：幕張メッセ国際会議場(〒261-0023 千葉県美浜区中瀬 2-1)

公益社団法人日本地球惑星科学連合は、我が国の地球惑星科学コミュニティーを代表し、地球惑星科学全体の振興と普及に寄与することを目的とした組織で、地球惑星科学に関連する 48 学協会が団体会員として加盟しています。

日本地球惑星科学連合 2012 年大会は、地球惑星科学の様々な分野に関連するおよそ 4000 件の発表が行われ、約 6000 人の参加者が見込まれる日本最大の地球惑星科学関連の講演会です。

ハイライト論文

日本地球惑星科学連合 2012 年大会で発表されるおよそ 4000 件の発表の中で、特に学術的・社会的に話題性の高いと思われる発表が、ハイライト論文として、日本地球惑星科学連合の 5 つのサイエンスセッション（宇宙惑星科学、大気海洋・環境科学、地球人間圏科学、固体地球科学、地球生命科学）、およびその他・広領域の、合わせて 6 つのカテゴリー毎に、それぞれ約 5 件選出されています。

本冊子は、各ハイライト論文について、

セッション名

著者

発表日、会場

タイトル

紹介文

等をまとめたものです。取材の参考にしていただければ幸いです。

日本地球惑星科学連合 2012 年大会については、下記の大会 WEB ページをご覧ください。

<http://www.jpogu.org/meeting/index.htm>

また、各ハイライト論文の詳細については下記ページの予稿（PDF ファイル）をご覧ください。

<http://www.jpogu.org/meeting/2012highlight.html>（5 月 11 日以降公開）

誠に恐縮ですが、会場・発表時間などは大会 WEB ページから大会プログラムを参照ください。

宇宙惑星科学

セッション記号/セッション名 (★国際)	P-CG33/惑星大気圏・電磁圏
著者	佐藤毅彦, 大月祥子, 岩上直幹, 上野宗孝, 上水和典, 鈴木睦, はしもとじょーじ, 坂野井健, 笠羽康正, 中村良介, 今村剛, 中村正人, 福原哲哉, 山崎敦, 山田学
発表日・会場	5/25 AM1 09:30 ~ 09:45 ・202
タイトル (★招待, 講演 NO)	PCG33-03 あかつき IR1, IR2 位相曲線観測による金星雲層構造の推定
紹介文	金星探査機「あかつき」は2011年2-3月, 太陽~金星間を通り, 1000万 km 以上離れた小さな満月状の金星を観測した. 本発表では, 1-2 μ m 波長帯の光度-位相角曲線が従来のモデルと大きく異なる値を示すことを紹介し, そこから推定される金星雲層構造について議論する.

セッション記号/セッション名 (★国際)	P-EM28/太陽圏・惑星間空間
著者	雨森道紘, 陳鼎, 日比野欣也, 堀田直巳, 稲葉智基, 石崎章雅, 梶野文義, 笠原克昌, 片寄祐作, 加藤千尋, 川田和正, 小財正義, 正川友朗, 水谷興平, 元山達朗, 宗像一起, 中野義文, 中尾優太, 南條宏肇, 西澤正己, 大西宗博, 太田周, 小澤俊介, 齋藤隆之, 齋藤敏治, 坂田通徳, 佐古崇志, 柴田楨雄, 塩見昌司, 白井達也, 穴戸清哉, 杉本久彦, 瀧田正人, 立山暢人, 鳥居祥二, 土屋晴文, 有働慈治, 山本嘉昭, 安江新一, 吉越功一, 湯田利典
発表日・会場	5/20 PM2 16:30 ~ 16:45 ・102A
タイトル (★招待, 講演 NO)	PEM28-05 チベット空気シャワーアレイで観測された 10TeV 宇宙線中の「太陽の影」による太陽コロナ磁場の診断
紹介文	宇宙から飛来する宇宙線を観測すると, 天空のある1か所だけ, 宇宙線があまり来ない方向があります. それは太陽の方向です. 太陽が宇宙線を遮って影を作るのです. 黒点の少ない極小期ほど効果的に遮られることもわかってきました. 太陽の磁場を知る手がかりにもなるのです.

セッション記号/セッション名 (★国際)	P-EM30/磁気圏構造とダイナミクス
著者	木村智樹, ラミーローラン, 埜千尋, バッドマンサラ V., セコーニバプティスト, ザルカフィリップ, 森岡昭, 三好由純, 笠羽康正, 丸野大地, 藤本正樹
発表日・会場	5/24 PM2 15:30 ~ 15:45 ・304
タイトル (★招待, 講演 NO)	PEM30-06 オーロラ電波から推定する土星オーロラ加速域の季節変動
紹介文	磁場をもつ惑星のオーロラ粒子加速域からは特徴的な電波が放射される. 土星探査機カッシーニによる電波観測から, 地球と土星ではオーロラ発生の仕組みが異なることを示唆する, 土星特有のオーロラの季節変動が発見された.

セッション記号/セッション名 (★国際)	P-EM32/大気圏・電離圏
著者	長尾大道, 富澤一郎, 家森俊彦, 金尾政紀, 徳永旭将, 樋口知之
発表日・会場	5/23 (ポスター発表) 17:15 ~ 18:15 ・2F コンベンションホール
タイトル (★招待, 講演 NO)	PEM32-P05 地殻活動起源の大気変動をモニタリングするための微気圧連続観測
紹介文	東北地方太平洋沖地震の余震に伴う大気変動を, 電気通信大学菅平宇宙電波観測所で実施している微気圧観測によって捉えることに成功した. 地震起源の大気変動の特性を, 数値シミュレーションとの融合によって明らかにすることにより, 将来的な津波早期警戒システムの構築に貢献できると考えられる.

セッション記号/セッション名 (★国際)	P-PS25/月の科学と探査
著者	綱川秀夫, 高橋太, 清水久芳, 渋谷秀敏, 松島政貴
発表日・会場	5/23 AM1 09:30 ~ 09:45 ・201B
タイトル (★招待, 講演 NO)	PPS25-03 月磁気異常のグローバル月面マッピング—月火成活動・月ダイナモ活動について
紹介文	太陽系天体の磁場獲得のメカニズムは生命を考える上でも大きな問題である. 本発表ではかぐやの磁場データを解析し, 月面上の線状磁気異常の分布が 40 億年前の大規模な火成活動によって月のダイナモ磁場中で生じたことを示し, その分布から広域的な応力場について読み解いた.

セッション記号/セッション名 (★国際)	★U-02/New Progress toward the Understanding of Small Solar System Bodies: From HAYABUSA to HAYABUSA2
著者	荒川政彦, SCI サイエンスメンバー
発表日・会場	5/21 AM2 12:00 ~ 12:15 ・201A
タイトル (★招待, 講演 NO)	U02-11 小型衝突装置(SCI)からのサイエンス
紹介文	“はやぶさ2”探査計画は, “はやぶさ”に続き, 日本が目指す小天体探査である. 本講演では, “はやぶさ2”において新規におこなわれる小型衝突実験の描像と, 期待される小天体表層のサイエンスを論ずる.

大気海洋・環境科学

セッション記号/セッション名 (★国際)	★A-AS03/Frontiers of Atmospheric Science: Extratropical air-sea interaction and Earth climate
著者	澁谷亮輔, 岡島悟, 末善健太, 仲谷幸浩, 東塚知己, 西井和晃, 宮坂貴文, 中村尚
発表日・会場	5/23 (ポスター発表) 17:00 ~ 18:30 ・2F コンベンションホール
タイトル (★招待, 講演 NO)	AAS03-P02 2010年夏における日本の猛暑のメカニズム
紹介文	観測史上最大の2010年猛暑の要因を数値大気モデル実験により探求した結果, 猛暑をもたらした小笠原高気圧の強化には, 平年よりも高かった熱帯インド洋や熱帯北大西洋の海面水温が重要な影響を与えた可能性があることが見出された。

セッション記号/セッション名 (★国際)	A-AS21/大気化学
著者	金谷有剛, Xiaole Pan, 入江仁士, 竹谷文一, 高島久洋, Zifa Wang
発表日・会場	5/22 PM1 14:30 ~ 14:45 ・201B
タイトル (★招待, 講演 NO)	AAS21-18 対流圏オゾン光化学へのエアロゾル影響: 中国 Rudong におけるオゾン等光解離速度定数(J 値)のエアロゾルによる低下
紹介文	地球規模でみても著しい大気環境変動が起きている中国において集中観測を行い, エアロゾル増加に伴う紫外線強度の低下を初めて捉えた。この過程により現在は中国でのオゾン生成は抑制されており, 今後エアロゾル汚染が改善すると紫外線強度が増し, 別の主要な大気汚染物質であるオゾンの生成量が増加してしまう可能性を指摘した。

セッション記号/セッション名 (★国際)	A-AS23/熱帯太平洋におけるマルチスケール大気海洋相互作用現象
著者	安田 珠幾
発表日・会場	5/22 PM1 14:42 ~ 15:00 ・301A
タイトル (★招待, 講演 NO)	★AAS23-04 熱帯太平洋における海面水位変動と変化
紹介文	地球温暖化による全球平均海面水位の上昇に加えて, 数年から数十年の時間規模を持つ地域的な海面水位変化は海洋国家にとって重要な社会問題である。本研究では, 観測や数値モデルを用いて, 熱帯太平洋の海面水位変動とエルニーニョや数十年規模変動などの気候変動との間に見られる関連について議論する。

セッション記号/セッション名 (★国際)	A-CC31/氷床・氷河コアと古環境変動
著者*	小端拓郎, D. T. Shindell, 小寺邦彦, J. E. Box, 仲江川敏之, 浮田甚朗, 川村賢二
発表日・会場	5/23 AM2 10:45 ~ 11:00 ・104
タイトル (★招待, 講演 NO)	★ACC31-06 過去1000年に見られる太陽活動によって引き起こされたグリーンランド気温変動の北半球傾向からのずれ
紹介文	地球温暖化とそれに伴う海面上昇を理解するためには、氷床が存在するグリーンランドの気温変動メカニズムを把握することが重要である。本研究では、氷床コアの気体分析から得られた過去1000年間のグリーンランドの温度変動データを用いて、グリーンランドと北半球平均の気温変動の間に共通点と相違点があることを明らかにした。さらに、その相違の原因が、太陽活動の変動により引き起こされた気圧配置や大気・海洋循環の変化である可能性を示した。

*主著者の申し出により修正

セッション記号/セッション名 (★国際)	A-OS25/海洋科学の未来を切り拓く大型研究計画の創成に向けて
著者	長谷川 拓也, ニューイヤースクール事務局
発表日・会場	5/25 PM1 14:30 ~ 14:45 ・102B
タイトル (★招待, 講演 NO)	★AOS25-04 ブレイクスルー研究の基盤構築に関連する若手研究者による取組み: 分野間連携と次世代育成に注目して
紹介文	海洋科学研究の未来を担う若手研究者の育成。地球温暖化の進行に伴い、大きな熱容量によってそれを遅らせる役割と共に、ある境目を越えると人智を尽くしても取り返しのつかないのが海洋である。東日本大震災からの復興も合わせて、これからは若手が引っ張り、青少年に夢を与える海洋研究を推進したい。

地球人間圏科学

セッション記号/セッション名 (★国際)	★H-DS05/Natural hazard impact on technological systems and urban areas
著者	松島 肇
発表日・会場	5/24 PM1 14:35 ~ 15:00 ・102B
タイトル (★招待, 講演 NO)	★HDS05-03 東日本大震災後の沿岸域における土地利用計画の再考
紹介文	東日本大震災は多大な被害をもたらしたが、一方で沿岸域における土地利用のあり方を考え直す機会を与えてくれた。本論では沿岸域の生態系サービスを活用した、減災と生物多様性を目指した土地利用のあり方を再考した。

セッション記号/セッション名 (★国際)	★H-DS06/Natural Hazards and Disaster Reduction in Asia, Africa, and the Pacific Rim
著者	Anawat Suppasri, Fumihiko Imamura, Shunichi Koshimura
発表日・会場	5/22 AM1 09:15 ~ 09:30 ・301A
タイトル (★招待, 講演 NO)	HDS06-02 Disaster Reduction Effort and Reconstruction after the 2011 Great East Japan Tsunami
紹介文	東日本大震災の巨大津波災害における数々の経験・教訓と、現在進められている災害に強い街づくりの手法を世界の国々と共有して将来の津波災害を軽減することを目指した論文。

セッション記号/セッション名 (★国際)	★H-GM02/Geomorphology
著者	金幸隆, 熊木洋太, 佐竹健治
発表日・会場	5/23 AM2 11:45 ~ 12:00 ・301A
タイトル (★招待, 講演 NO)	HGM02-11 三浦半島の海岸における 1703 年元禄地震以前の地震性隆起運動の地形学的証拠
紹介文	航空レーザー測量に基づいた 50cm 間隔のデジタル標高データと空中写真判読により、三浦半島における 1703 年元禄地震と 1923 年関東地震を含む地震隆起にともなって形成された 5～6 段の海成段丘の存在とその特徴を明らかにした。

セッション記号/セッション名 (★国際)	H-GM21/地形
著者	今泉俊文, 横山隆三, 宮内崇裕, 楳原京子, 白澤道生
発表日・会場	5/23 PM2 16:15 ~ 16:30 ・301A
タイトル (★招待, 講演 NO)	★HGM21-10 DEM データから作成した立体地形解析図の地形・地質判読への利用
紹介文	航空機から土地の標高を測定する航空レーザー測量から得られた詳細なデジタル標高データを用いてさまざまな地形表現を立体画像として表示する「立体地形解析図」が、防災上重要な役割をはたす地形・地質判読に有効であることを示す。

セッション記号/セッション名 (★国際)	★H-TT07/GIS
著者	爲季和樹, 堤 盛人
発表日・会場	5/22 AM1 10:00 ~ 10:15 ・102A
タイトル (★招待, 講演 NO)	HTT07-05 Fixed Rank Filtering による放射線量分布図の作成
紹介文	原発事故と関連した放射線量の分布図を, 観測データから適切に作成するための方法を, 空間統計に基づく補間の理論と手法を踏まえて検討した. 作成された分布図の誤差に関する議論も行った.

固体地球科学

セッション記号/セッション名 (★国際)	S-CG63/スロー地震
著者	伊藤喜宏, 日野亮太, 木戸元之, 藤本博己, 長田幸仁, 稲津大祐, 三浦哲, 太田雄策, 内田直希, 辻健, 芦寿一郎, 三品正明
発表日・会場	5/20 AM1 09:00 ~ 09:15 ・303
タイトル (★招待, 講演 NO)	★SCG63-01 2011年東北地方太平洋沖地震発生前のスロースリップイベント
紹介文	これまで東北日本ではほとんど見つかっていなかった「ゆっくりすべり」が, 2011年東北地方太平洋沖地震時に大きくすべった領域のやや深部で, 2008年11月(マグニチュード6.8相当)と2011年2月(マグニチュード7.0相当)の2回にわたり発生していたことを, 海底に設置した圧力計と, 陸上の歪計の観測によって明らかにした.

セッション記号/セッション名 (★国際)	S-CG66/海洋底地球科学
著者	田所敬一, 生田領野, 渡部豪, 永井悟, 安田健二, 坂田剛, 江藤周平, 奥田隆
発表日・会場	5/22 PM1 13:45 ~ 14:00 ・101B
タイトル (★招待, 講演 NO)	SCG66-10 熊野海盆における海底地殻変動モニタリング結果
紹介文	日本で新たに開発した装置を用いて, 東南海地震の震源域直上に位置する熊野灘の海底で地殻変動を測定しました. その結果, 陸と海のプレートがしっかりとくっついており, 次の東南海地震に向けてそのエネルギーを貯めていることが明らかになりました.

セッション記号/セッション名 (★国際)	S-CG74/2011年東北地方太平洋沖地震: 地殻変動からのアプローチ
著者	飯沼卓史, 日野亮太, 木戸元之, 稲津大祐, 長田幸仁, 佐藤まりこ, 石川直史, 太田雄策, 伊藤喜宏, 鈴木秀市, 藤本博己
発表日・会場	5/24 PM1 14:30 ~ 14:45 ・国際会議室
タイトル (★招待, 講演 NO)	SCG74-04 海陸地殻変動データに基づく2011年東北地方太平洋沖地震に伴う余効すべりの時空間発展
紹介文	海陸の地殻変動データから2011年東北地方太平洋沖地震の余効すべり分布を推定した結果, 地震時に非常に大きくすべった領域(50m以上)の外側に推定され, 青森県~岩手県沖及び福島県~茨城県沖のプレート境界浅部(20km以浅)では, 非地震性すべりによって歪みが解消されている可能性があることが示された.

セッション記号/セッション名 (★国際)		S-SS31/内陸地震に対する包括的アプローチ
著者	遠田 晋次	
発表日・会場	5/22 PM2 16:45 ~ 17:00 ・104	
タイトル (★招待, 講演 NO)	★SSS31-06 東北地方太平洋沖地震による内陸誘発地震活動の減衰と継続性	
紹介文	本論文は、東北地方太平洋沖地震による東日本内陸の地震活動変化の推移を調べ、構造特性や応力蓄積速度の地域差を議論したものであり、巨大地震後の地震活動に関する社会的関心にも応えるものである。本論文は、巨大地震後約1年間の地震活動の時間変化に着目した研究を行っており、今後の地震活動の推移を予測する上でも重要な研究である。	

セッション記号/セッション名 (★国際)		★S-TT03/Airborne surveys and monitoring of the Earth
著者	近藤敦哉, 眞田幸尚, 杉田武志, 鳥居建男	
発表日・会場	5/23 AM2 11:35 ~ 11:55 ・102A	
タイトル (★招待, 講演 NO)	★STT03-07 航空機モニタリングによる放射性セシウムの沈着量の測定	
紹介文	2011年3月におきた福島第一原発事故により放出された放射性セシウムの空間線量率と沈着量を推定するため、ヘリコプターを用いた航空機モニタリングを東日本全域で実施した。調査結果から放射性セシウムの空間線量率と沈着量の分布図を作成し、除染地域の決定や汚染程度の推定に重要な情報を提供した。	

セッション記号/セッション名 (★国際)		S-VC54/火山噴火のダイナミクスと素過程
著者	鈴木雄治郎, 小屋口剛博	
発表日・会場	5/20 (ポスター発表) 17:15 ~ 18:30 ・2F コンベンションホール	
タイトル (★招待, 講演 NO)	SVC54-P13 火山噴煙の3次元数値シミュレーション: 周囲の風が噴煙高度に与える影響	
紹介文	風によって火山の噴煙が流される様子を3次元シミュレーションで再現することに初めて成功しました。2011年新燃岳噴火の噴煙にも適用したところ、観測された噴煙高度と非常に良く一致し、噴煙物理の解明と防災利用につながります。	

地球生命科学

セッション記号/セッション名 (★国際)	B-BG21/海底下の大河：海洋地殻中の移流と生物地球化学作用
著者	柳川勝紀, 布浦拓郎, 川口慎介, 平井美穂, 砂村倫成, 高井研
発表日・会場	5/21 PM2 15:45 ~ 16:00 ・101A
タイトル (★招待, 講演 NO)	BBG21-08 熱水噴出孔下に生命圏は存在しうるか? 中部沖縄トラフ伊平屋北海域 IODP 掘削(Exp. 331)からの答え
紹介文	「地球内部からのエネルギー・物質フラックスに依存した生態系」である熱水域海底下生命圏に直接アプローチする掘削調査を行った。掘削試料の化学・遺伝子・微生物活性解析から、生命/非生命圏境界(生命圏の下限)を評価した。

セッション記号/セッション名 (★国際)	★B-PO02/Biocalcification and the geochemistry of proxies
著者	Bijma Jelle, Gernot Nehrke, ド・ノーイエ レナート, Antje Funcke, ケウル ニイナ
発表日・会場	5/25 AM1 09:15 ~ 09:45 ・103
タイトル (★招待, 講演 NO)	★BPO02-02 有孔虫の石灰化機構と環境指標
紹介文	人間活動による炭素の放出は、地球温暖化の原因となるだけでなく、海洋酸性化などの地球現象に影響を与えている。海洋生物の炭酸カルシウムの殻は炭素放出のさまざまな証拠を記録しているため、古海洋変遷・気候変動などの良い指標となる。しかし、記録媒体である殻形成メカニズムの詳細はわかっていない。本講演では、代表的な石灰化生物である有孔虫の殻形成メカニズムについて研究の現状をまとめ、これからのガイドラインを示す。

セッション記号/セッション名 (★国際)	M-IS30/遠洋域の進化
著者	黒田潤一郎, 鈴木勝彦, 大河内直彦
発表日・会場	5/25 PM1 14:45 ~ 15:00 ・201A
タイトル (★招待, 講演 NO)	★MIS30-05 白亜紀における大規模火山活動と地球環境変動のリンク ~遠洋性堆積物から読み取る地球内部ダイナミクスと環境変動~
紹介文	大規模火山活動と地球環境変動との関係について、遠洋性堆積物中に含まれる鉛とオスミウムの同位体分析からの検討例が紹介される。三畳紀末の大量絶滅や白亜紀の海洋無酸素事変が取り扱われる。

セッション記号/セッション名 (★国際)	U-04/生命-水-鉱物-大気相互作用
著者	郡司 幸夫
発表日・会場	5/24 PM1 13:45 ~ 14:15 ・303
タイトル (★招待, 講演 NO)	★U04-01 構造と機能の未分化性が発現する部分と全体の相補性
紹介文	郡司氏が長年展開してきた生命システムについてのユニークな理論である。生命システムは、原初的検知能をもつ相互作用要素が、部分と全体の相補性を自己組織化することで特徴付けられ、様々な階層（細胞・個体・群れ）で認められる現象であることが示される。

その他・広領域

セッション記号/セッション名 (★国際)	M-AG34/福島第一原子力発電所事故による環境汚染への地球科学からの挑戦
発表日・会場	5/23 PM2 15:30 ~ 5/24 AM2 12:15 ・国際会議室
紹介文	福島第一原発事故による環境汚染の全体像を明らかにするため、事故発生後1年間に実施された、大気、陸域、海洋における放射性物質の輸送・拡散・移行過程の研究について、国内国外でこれまでに得られた成果を紹介し、総合的に議論を行う。

セッション記号/セッション名 (★国際)	G-01/地球科学の科学史・科学哲学・科学技術社会論
著者	青木 滋之, 吉田 茂生
発表日・会場	5/20 AM2 11:15 ~ 11:30 ・202
タイトル (★招待, 講演 NO)	G01-09 科学哲学から科学の科学へ ―地球科学をケーススタディにして
紹介文	ある科学が発展し成熟するときには、前後してその哲学や歴史も発展し成熟する。現在発展途上にある地球惑星科学を、「科学哲学の科学化」という方向性から眺めると、何が見えてくるのか。地球科学の成立という近傍の歴史を手掛かりに、刺激的な議論を提起したい。

セッション記号/セッション名 (★国際)	★M-IS04/Deep Carbon Cycle
著者	鈴木 庸平
発表日・会場	5/20 AM2 11:25 ~ 11:50 ・105
タイトル (★招待, 講演 NO)	★MIS04-03 我が国の陸域地下微生物生態系の解明に向けた取り組み
紹介文	広大な地下環境に微生物が生息し、巨大な生命圏を形成している可能性が指摘されている。本発表は、我が国のさまざまな地質環境における微生物生命圏を最新の地下深部掘削に基づいて比較・考察し、地球深部での炭素循環に大きなインパクトを与えるものである。

セッション記号/セッション名 (★国際)	M-IS21/生物地球化学
著者	平田岳史, 田中佑樹, 大竹二雄
発表日・会場	5/23 PM1 13:45 ~ 14:07 ・302
タイトル (★招待, 講演 NO)	★MIS21-01 鉄同位体を用いた海洋環境での鉄生物サイクルの評価
紹介文	生体内を含めた地球規模でのマルチスケール元素循環を調べるのが地球メタロミクス研究です。本発表では、生体必須元素である鉄が海洋でどのように循環・利用されているかを紹介するとともに、タンパク質機能解明、産地判別、健康診断、などの様々な地球メタロミクス研究の応用をご紹介します。

セッション記号/セッション名 (★国際)	M-IS27/地球掘削科学
著者	木下正高, 深瀬裕彬
発表日・会場	5/24 AM1 09:42 ~ 09:57 ・101B
タイトル (★招待, 講演 NO)	MIS27-02 南海トラフ前弧斜面の掘削孔で検出された高濃度メタンハイドレートの含有率推定
紹介文	地球深部探査船「ちきゅう」を用いた統合国際深海掘削計画 (IODP) では, 2007 年から南海トラフ地震発生帯掘削計画が実施されている。本研究では, その成果の一環として次世代エネルギーとして注目されているメタンハイドレートの含有率の推定や, その分布と地質構造の関係について考察を行っているので紹介する。

セッション記号/セッション名 (★国際)	★M-TT06/100Years of Geomagnetic Observations at KAKIOKA - Contributions to Centennial Progress of Geophysics
著者	Jeffrey Love, E. Joshua Rigler, Sarah E. Gibson
発表日・会場	5/24 AM1 10:00 ~ 10:20 ・301B
タイトル (★招待, 講演 NO)	★MTT06-05 Geomagnetic detection of the sectorial solar magnetic field and the historical peculiarity of minimum 23-24 (太陽磁場扇形構造の地磁気による検出および第 23-24 太陽活動期極小期の歴史的特徴)
紹介文	最近の, 太陽黒点数が著しく少ない時期のデータから, 過去百年以上の地磁気活動データからは未発見だった太陽の周期変動が新たに見出されました。この変動は, 太陽の磁場発生機構と関係があると推測されています。